

# ほんの たね ~ファンタジー~

ファンタジーというと、一般には「指輪物語」やハリー・ポッターシリーズなどが思い出されるでしょうか。しかし自分は、ふつうファンタジーとは思われていない作品をそう感じてしまうことがあって、それはなぜだろうと常々疑問に思っていました。

一例として、森見登美彦さんの「ペンギン・ハイウェイ」を挙げたいと思います。第31回日本SF大賞を受賞した本作ですが、自分が読んだ森見作品の中では、最も優れたファンタジーだと思います。舞台は現実の世界であると思われるのにもかかわらずです。しかしながら、ファンタジーとは我々が生活するこの現実世界の中で、常に発見を待っているものなのではないでしょうか。ファンタジーも物語である以上、その生まれ故郷は、やはり現実世界に外なりません。

ファンタジーとは、狭く文学の一分野を指すのみならず、ものの見方、現実を捉えようとする際の、その人の心の働きのことを言うのではないかと思います。ある作品を読んで、この表現は、著者が「ファンタジーによったものの見方」に基づいて、現実からつかまえてきたものではないか、そう感じた時、自分はそれをファンタジーと認識するのも知れません。甚だ主観的な物言いで恐縮なのですが、そう考えれば、一般にはファンタジーと思われていない作品を、そうだと感じてしまう理由にもなると思います。

ふつうはそうだと思われていなくても、自分は優れたファンタジーだと考えるその他の作品としては、フィリパ・ピアスさんの「トムは真夜中の庭で」や筒井康隆さんの「愛のひだりがわ」、ガブリエル・ガルシア=マルケスさんの「百年の孤独」「コレラの時代の愛」を挙げたいと思います（勿論、マジック・リアリズムという用語も知ってはいるのですが…）。

冒頭で、一般にファンタジーと言えばハリポタなどではないか、と書きましたが、現状ではファンタジーは決めつけ・思い込みという、人の心の狭いところへ窮屈に閉じ込められてしまっている感があります。ライトノベルやアニメのような、似たものが際限なく再生産され続ける分野にファンタジーと呼ばれるものが多いのも、そのような決めつけの一因でしょう。しかし、そもそもファンタジーは「異」を描くものであり、その根底には多様性（＝自分と異なるもの）を面白がる自由な心があるはず。多様な「ファンタジーによったものの見方」から生まれた作品が増えていけば、ファンタジーも本来の自由さを取り戻せるのではないかと…そんなことを考えてしまいます。(O)

## 「ほんだな」で紹介した本

- 『ペンギン・ハイウェイ』 森見登美彦／著  
角川書店 【モリ】
- 『トムは真夜中の庭で』 フィリパ・ピアス／作  
岩波少年文庫 【JBヒ】
- 『愛のひだりがわ』 筒井康隆／著  
岩波書店 【ツツ】
- 『百年の孤独』 G.ガルシア=マルケス／著  
新潮社 【963カ】
- 『コレラの時代の愛』 同上 ※中央・駒込・池袋・千早で所蔵

# 6月の行事

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
新刊お話し会	休館					
11	12	13	14	15	16	17
新刊お話し会	休館	休館	休館	休館		
18	19	20	21	22	23	24
新刊お話し会		赤ちゃんお話し会			休館	
25	26	27	28	29	30	
新刊お話し会						

特別整理期間のため  
四日間  
お休みをいただきます。

- <日曜> 新刊本を出します。  
新刊コーナーにご注目！  
毎週11時から、幼児から小学生低学年向けのお話し会があります。
- <火曜> 第3火曜日11時から、赤ちゃん向けお話し会があります。

## 編集後記

新年度始まった  
「すがもらいぶらいあんずの本棚」  
ですが、コーナー名にしては長すぎるよ！  
というお声をいただき…  
皆さんの心に本の種をまきたいという想いを込め、  
「ほんの たね」  
に、名称変更しました。ご愛読を！

(M)

# すがもらいぶらり

2023年6月5日 栄鴨図書館発行

梅雨が近づいて参りました。この季節になると佐野洋子さんの「おじさんのかさ」を思い出します。お話には、傘を大事にするあまり、雨の日でも傘をささないおじさんが登場します。おじさんは傘を開くのか？はお話を読んでみてください。登場するキャラクターは愛らしく、雨が降るのが楽しみになります。

雨が降った日も、お気に入りの傘やレインコートを着けると心は晴れやかになる…かも？雨の日もぜひ、栄鴨図書館にご来館ください。

(館長)



児童コーナーの特集も「あめ」です

## 雨がテーマのおすすめ絵本

- 『おじさんのかさ』  
佐野洋子／作・絵 講談社 1992.5  
【E サノ】
- 『かさどろぼう』  
シビル・ウェッタシンハ／作・絵  
いのくまようこ／訳 徳間書店  
2007.5 【E ウエ】
- 『あめのひ』  
サム・アッシャー／作・絵  
吉上恭太／訳 徳間書店 2017. 6  
【E アツ】



## じろうくん

実は雨が苦手なじろうです。  
そして、図書館にとっても雨は厄介…  
図書館に来る途中で、「本が濡れてしまった。」なんてことにならないよう、  
注意していたけると嬉しいです。

イラスト作 S

美鴨図書館のワークショップに来て  
くださった鈴木純先生が出演された  
「ダーウィンが来た」  
はご覧になりましたか？  
テーマは、「植物の底力」  
これにちなみ、今月はすがもがーでの  
「野菜の底力」をご紹介します！



きゃべつの底力！



アスパラの底力！



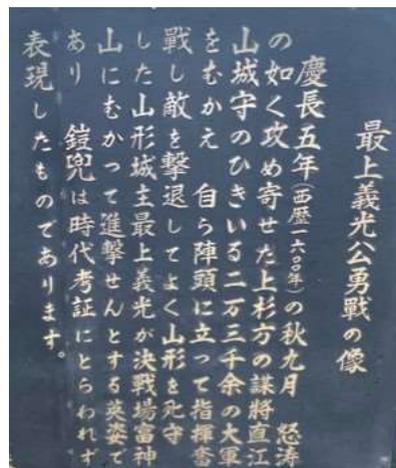
底力を見せて欲しい稲！

おすすめ本

- 『お米をつくろう！ バケツで育てる』  
岩崎書店 2020.09 【616】
- 『おこめができた！』  
ひさかたチャイルド 2013.04 【616】
- 『やさいの「おなか」 葉や茎を食べるやさい』  
農文協 【626】
- 『やさいの花』  
ポプラ社 2016.05 【626】



城内にはお琴の音色が流れていました



最上義光は、  
山形県民の誇りです

今回は出羽の戦国武将、最上義光の居城である山形城を紹介しましょう。

東京から車で5時間ほど、山形城に行ってきました。山形城は、山形県の県庁所在地の山形市の中心部にあります。城は、最上家が1300年中頃に礎を築き、1622年に最上家が改易された後に鳥居氏が拡張したもので、三の丸まで含めた広さは全国5位（江戸城、大阪城、小田原城、名古屋城に次ぐ）で、東北地方では最も広いお城です。天守閣はなく、本丸御殿が設けられています。

関ヶ原の合戦と同じ年に、「北の関ヶ原」と称される慶長出羽合戦が起こります。東軍は最上家と伊達家の連合軍で、西軍は越後から会津・米沢・庄内へ移封された上杉家です。合戦の初期は攻め入った大兵力の上杉軍が優勢でしたが、関ヶ原の合戦での東軍の勝利が知られると形勢は逆転、最上義光は庄内三郡を加増され57万石の大名となりました。その後、城下町の整備・最上川の改修と舟運の活用・庄内地方の新田開発など出羽国の発展に尽力しました。しかし残念ながら義光の死後お家騒動で改易となり、鳥居忠政の居城になりました。その後も分割が続き、結局山形藩は幕末までに実に10回余り藩主交代が行われることになりました。

慶長出羽合戦の際、霞で山形城の城郭が隠れる日々が続いたため、別名を霞城、霞が城と称されています。現在、二の丸の内側が霞城公園として整備され、再現された二の丸東大手門は、櫓門、続櫓、高麗門で構成される大きな升形門です。霞城公園は桜の名所で、私が訪れた日はちょうど霞城観桜会が開かれており、満開の桜の下でお琴の音色を聞きながらの雅なお城巡りになりました。

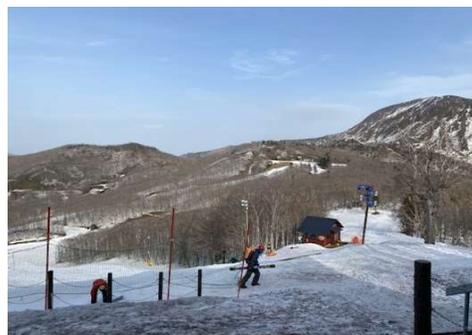
また山形城から車で30分程の所に開湯1900年余の蔵王温泉があり、山形蔵王スキー場では蔵王連峰を眺めながら春スキーを楽しんでいる人が大勢いました。

毎年9月には、山形市の河原敷でギネス世界記録に認定された「日本一の芋煮会」が開かれています。6.5mの大鍋で3万食を調理する光景は圧巻です。

みなさんも是非一度山形を訪れてみてはいかがでしょうか。  
(K)

おすすめ本

- 『北天に楽土あり—最上義光伝—』  
天野 純希/著 徳間書店 【B ア】
- 『山形県の歴史』  
横山 昭男/他著 山川出版社【210.0 ケ】
- 『山形県の歴史散歩』  
山川出版社 【291.0 レ】



春スキーを楽しむ人たち